

「(農)ファームよしだ」を核にタマネギの拠点産地づくり

1. 農事組合法人ファームよしだ(安来市)

【設立】H31年2月設立
 農業の担い手が減る中、地域の農地荒廃への危機感から「吉田地区農業競争力強化農地整備事業(H29～R5年度予定)」を契機に法人を設立。
 【組合員】92人
 【経営面積】約40ha(R5年度作付可能面積)
 【経営品目】水稲37.1ha(R6年計画:39.6ha)
 タマネギ5.5ha(R5年作付)

2. 取組の経過及び概要

基盤整備後の早期経営安定のためには、高収益作物の導入が必要であることから、水田園芸に着目。
 R2年からタマネギ・キャベツを試作する中で、**作業の機械化が可能なタマネギを園芸品目の柱に決定。**
 水田園芸の拠点産地づくりを目指して、その核となる役割を果たすため、R3・4年度の「産地生産基盤パワーアップ事業」・「水田園芸拠点産地づくり事業」を活用して、各種機械を導入することで、**大規模機械化作業一貫体系を確立。**

導入年	導入機械	
R3	オニオンハーベスタ	
	ディガー	
	リアリフト	
	ハイクリブーム	
	根切機	
	肥料散布機	
	フォークリフト	
R4	乗用移植機	
	マニユアスプレッター	

3. 取組の成果

(1) タマネギの拠点産地づくりが進展

R2年に20aから始まったタマネギの面積は、R6年には5.5haに拡大。将来的には10haを目指す。
 また、(農)ファームよしだの栽培が契機となり、周辺組織にも波及効果があり、タマネギ栽培が拡大中。

栽培面積の増加(収穫年)(単位: ha)

年度	R2	R3	R4	R5	R6	目標
安来東地域						
ファームよしだ	0.2	0.3	1	3	5.5	10
その他	0.8	1.3	1.7	1.7	1.8	1.8
合計	1	1.6	2.7	4.7	7.3	11.8

(2) 拠点産地づくりに向けた取組

拠点産地づくりに向けて、共同育苗体制の構築のため**育苗技術の習得と良質苗の安定供給を目的とした育苗委託管理**を実証。
 生産者が連携し情報交換等による栽培技術向上、生産を巡る各種課題の解決を図るため**生産者の組織化**を検討中。



播種作業



育苗ベンチ作成

代表者から一言

タマネギは作業の機械化が可能で、支援制度がある今のうちがチャンスだと思いました。10haの栽培に向けて、組合員一丸となってチャレンジしていきたいです。

新田徹 代表理事組合長(65才)

4. 課題と今後の取組方向

- (1) 排水対策の徹底による反収向上及び生産コスト低減による収益性の確保・タマネギ定着促進
- (2) 近隣生産組織との連携による農作業受委託の仕組みづくり
- (3) 適切な作物輪作体系の確立によるタマネギ定着促進